



赤ちゃんの お耳の聞こえを 確かめましょう!!

赤ちゃんのすこやかな成長は皆さんの望みです。
赤ちゃんの1,000人のうち1~2人は、
生まれつき耳の聞こえにくさがあるとされています。
新生児聴覚スクリーニング検査を受けて、
お耳の聞こえを確かめましょう!

赤ちゃんのことは、家族との生活の中で一緒に喜んだり楽しんだり
することにより、育っていくものです。

お耳の「聞こえ」は、ことばや心の発達に大切な役割を持っています。

どうして検査を行うのですか?

耳の聞こえは、外見ではわかりにくいものです。お子さんの耳が聞こえにくいことに気づかずにいると、ことばの発達が遅れたり、コミュニケーションがとりにくくなることがあります。

検査で早めに発見することにより、専門の施設などで適切な支援を受け、心身のすこやかな発達が望めます。

生後1か月以内までに検査を受けることが大切です。



どこで受けられますか?

出産した医療機関などで、退院までの間に検査を受けます。検査の実施について、主治医や医療機関の窓口で確認しましょう。

出産を予定している施設が検査を行っていない場合は、退院後に、他の医療機関で検査のみ受けることになります。

主治医などに相談してみましょう

費用の補助

市町村によっては、検査費用の一部を助成をしています。
助成の有無についてはお住まいの市町村の母子健康手帳の交付窓口等で確認してください。

どんな検査ですか？



赤ちゃんが眠っている間に、小さな音を聞かせ、反応を検査機器で確かめます。検査は数分から10分以内で終わります。

自動ABR(自動聴性脳幹反応)と、OAE(耳音響放射)の2種類の検査機器があります。

どちらも痛みや赤ちゃんの体への影響のない安全な検査です。

検査結果の見方

パス あるいは **リファー** の結果がでます。

(要再検)

パス

聞こえの反応があったということです。

.....

今回の検査では反応が確認できなかったため、詳しい検査が必要となります。耳が聞こえていないと判断されたのではありません。

リファー

お子さんの体調のよい時に、耳鼻科の専門医療機関や聴覚精密検査を行う医療機関を受診しましょう。



耳の聞こえは、中耳炎などによって、後から悪くなる場合もあります。子どもの育ちは、一人ひとり違いますが、「眠っていて、突然の音に目を覚ます(1か月頃)」、「テレビの音などに顔を向けることがある(3か月頃)」、「声をかけると振り向く(6か月頃)」など、成長するにつれて、実際の音への反応もわかりやすくなります。

お子さんの聞こえや、ことばの発達を見守っていきましょう。

気になることがある場合は、かかりつけの小児科や耳鼻咽喉科の医師やお住いの市町村の保健師等にご相談ください。

